

令和 4 年 9 月 2 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00931

研究課題名（和文）渡海者のアイデンティティと領域国家：21世紀海域学の史的展開

研究課題名（英文）Historical studies on the identity of people crossing seas and the Region States

研究代表者

上田 信（Ueda, Makoto）

立教大学・文学部・教授

研究者番号：90151802

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 28,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクトではアジア海域（インド洋・シナ海域・西太平洋）を舞台に、14世紀から19世紀にかけて往来した様々なヒトを取り上げ、送り出し側と受け入れ側の双方の領域国家との関係を解明した。具体的にはアジア海域で活動したポルトガルのコンベルソ（ユダヤ教からキリスト教に改宗した人々）、ディアスポラのなかで日本や東南アジアで活動したアルメニア人、郷里を離れてインドや中国に赴いたスコットランド人、中国・東南アジアと日本とのあいだで密貿易を展開した倭寇などの実態を明らかにした。さらに、メキシコのクエルナバカ教会壁画に描かれた長崎二十六聖人の図像を調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代的な海洋秩序が形成される以前のアジア海域では、宗教的・政治的な理由から郷里を離れた人々、あるいは密貿易や海賊など国家の統制から自由になるうとした人々が、渡海者として活動していた。従来の海域アジア史では、渡海者は送出し国・受け入れ国の側から、亡命者・棄民・移民などとマージナルな存在として位置づけられてきた。本研究では、彼らのアイデンティティに立ち返って考察する視点を確立し、渡海者の立場から彼らに生きられていた世界を明らかにすることができた。また、渡海者の足跡を訪ね、メキシコ・ポルトガル・オランダ・インド・東南アジアを訪問し、史跡を視察するとともに現地に残された史料・文献を収集した。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we have studied various people who came and went between the territorial states in the maritime sphere of Asia (Indian Ocean, China sea, Western Pacific Ocean) from the 14th century to the 19th century. Specifically, we have clarified the actual situation of the Portuguese Conversos (people who converted to Catholicism from Judaism) who were active over the Asian oceans and seas, the Armenians who settled down in Japan and Southeast Asia, the Scottish who left their homeland for India and China and the Japanese pirates (wokou/wakou) who smuggled among China, South Asia and Japan. In addition, we investigated the iconography of the 26 saints of Nagasaki on the mural paintings of the Cathedral of Cuernavaca in Mexico.

研究分野：アジア社会史

キーワード：渡海者 アイデンティティ 領域国家 海域史 新キリスト教徒 倭寇 密貿易商人 アルメニア人

1. 研究開始当初の背景

アジア海域史についても寧波プロジェクトなどが進められ、研究が蓄積されていた。しかし、その主要なテーマは、海を越えて運ばれた陶磁器や生糸・絹織物、香辛料やアヘンなどのモノ、イスラームやキリスト教などのイミが主であり、実際に海を渡ってモノを運び、イミを伝えたヒトに着目した研究は、以外にも多くはなかった。本研究は、海を越えて移動した人々を「渡海者」として総合的に研究しようとする視点は、従来の研究で欠けていた。

14～19世紀のアジアでは、多くの地域で領域国家が確立してきた。このなかで、渡海者が陸の社会に衝撃を与え、国家形成に深い影響を与える例としては、日本列島における中世の分権的体制から近世の領域国家への展開、東南アジア・南アジアにおける王権の成立過程や植民地としての国家形成など、枚挙にいとまがない。従来の研究では、渡海者はその出身地に帰属させて論じられることが多く、彼らが自らをどのように認識していたのか検討されていない。

2. 研究の目的

領域国家の形成プロセスを過去に遡ると、海を渡って往来した人々の活動が国家形成の重要な契機となっている。従来の研究では「海」を領域国家の域外・辺境とするが、本研究では「渡海者自身のアイデンティティ」を解明し、彼らの主体的な働きかけに対し、「陸」の社会と国家がどのように反応してきたのかを解明する。本研究は座標軸を、陸から海へと反転させる。

古くから活発な航海活動が展開していたアジア海域では、渡海者の出自、出身地や目的地、航海の理由・目的は多様であった。本研究ではこうした「国籍」では括れない人々を研究対象とし、その多面的な人格を分析する新たな方法論を確立する。特に、個別の渡海者に焦点をあて、その生い立ちや世界観などを掘り下げるミクロな歴史、海域を渡ってモノを運び、イミを伝達するプロセスを検討するグローバルな歴史とを統合する「トータル・ヒストリー」とでも呼ぶべき新たな歴史研究の地平を拓くことを、最終的な目的とする。そのために、具体的に3つの柱を立てる。

(a) 渡海者のライフヒストリーに関する多言語資料の収集と解析

渡海者に関する史料・資料は、出身地と渡航地とに分散して存在し、記載に用いられる言語も異なることが一般的である。そのため、対象となる渡海者の出生から活躍時期、死去にいたる経歴を、一貫して把握することが困難であった。本研究では、研究代表ならびに研究分担者が分担しながらカバーできる言語の幅が広く、共同研究を進めるなかで個々の渡海者の人生における各局面での資料を収集し、分析する。

(b) 渡海者に生きられた世界に対するフィールドワークに基づく検討

渡海者がどのような社会で生まれ育ち、どのような理由で海に乗り出し、どのような航海を行ったかなどの課題を解明するために、渡海者に関する地点でフィールドワークを行う。また、各地の博物館展示やモニュメントなどを視察することで、渡海者を送り出した国や社会、受け入れた国や社会のなかでどのような評価を受けているかを解明する。

(c) 渡海者のアイデンティティを分析する方法の確立

渡海者は国家や地域を越えて活動しているために、統一した人格として理解することが難しい。人格研究について、西洋古典史研究においてプロソポグラフィという方法が提言されている。これは、対象とする人物の伝記資料を収集・整理し、社会における人格の在り様を、多角的に整理しようとするものである。こうした先行する研究方法も参考にしつつ、本研究では複数の社会にまたがって活動した人物について、異なる社会での呼称・肩書きなどを他者との関係のインターフェイスとして分析する方法を確立することを目指す。

3. 研究の方法

(a) 個々の渡海者に関する総合的な検討

アジアで近代に連続する領域国家が形成されていく14～19世紀、アジアの海を渡る人々は、国家の側から一面的に評価されることが多い。例えば日本への鉄砲伝来の立役者と推定される王直は、送り出した中国では海賊の頭目としてマイナスに評価される一方で、受け入れた日本では交易を盛んにした海洋商人のリーダーとしてプラスに評価されている。こうした状況は、アジアに乗り出したポルトガル海洋商人、アジアの多くの港町でネットワークを拡げたアルメニア人、ブリテン島では社会的上昇の路が閉ざされたスコットランド人などにも認めることができる。人物評価が分かれる渡海者について、生い立ちから寄港地での活動を網羅的に跡づけていくことで、その本人の自己認識を起点とするアイデンティティに基づく分析方法を検討していく。

(b) 史料・研究文献・小説・映画・史跡案内板などの収集・分析・翻訳

渡海者に関するイメージは、出身地・寄港地・渡航地などで大きな差異を示すことが多い。記述に用いられている言語も多様である。世界に分散している史料などを収集するとともに、本研究のメンバーが習得している言語を運用し、多言語の情報を日本語または英語に移し替えて、共有する。価値を認められるものは、出版やネット発信などで公開する。

(c) 渡海者が活動した海域・地域におけるフィールドワーク

渡海者の活動領域は広いと、個別の渡海者の出身地・寄港地において、それぞれの地域の歴史を専攻とする複数の研究者が共同でフィールドワークを行う。たとえばアジアに渡ったボル

トガル人について、出身地であるポルトガル史を専攻する研究者と、渡航先の中国や日本の歴史を専攻する研究者が、調査チームを構成してリスボンを訪問し、共同して調査を行うといった取り組みを行う。

4. 研究成果

(a) 渡海者および海域学に関する資料・文献の収集

立教大学に置かれた統括チームのもとで、研究体制の構築と海域学に関する資料収集に努めた。一つの成果として、16世紀におけるオランダとイギリスの渡海者の状況を決定づけたアンボyna事件に関する原資料、18世紀に中国沿海部の航海記録の初版本、フランス人の中国に関する報告書などを購入したことが挙げられる。さらに、日本の主要大学などには収蔵されていない、欧文・中国文の海域に関する資料集・文献を収集し、これらを活用して読解・分析を進めることができた。立教大学が収蔵するオランダ植民地各種図面集の整理を進め、カタログの草稿を完成することができた。今後、この草稿を校閲し、作業が完成した後にWebで公開して、研究者の利用の便を図ることになる。

2017年から2019年にかけては、ヨーロッパからアジアに赴いた渡海者に関する資料収集を目的として、研究代表・分担者が関心をテーマに沿って、国内外に赴いて図書館・資料館などを訪問することができた。上田はBritish LibraryおよびNational Library of Scotlandで、アヘン商人William Jardineに関する資料調査を実施した。特にJardine本人が医学者として出版した書籍を閲覧、コピーをとることが出来たのは、渡海者の多様性を考察する上で、1つの成果であったといえよう。重松は神戸居留地のアルメニア人商会に関する資料調査を、神戸市公文書館などにおいて実施した。さらにインド(コルカタ)、東南アジア(ペナンおよびシンガポール)に散在するアルメニア海商関係の史料を収集した。これまで断片的にしか明らかになっていなかった、アルメニア人の活動を全体的に解明する基礎を固めることが出来た。中里は19世紀半ばのカルカッタの有力英字紙に基づき、英国人私人に関する記事を分析、また大英図書館などでインドに渡った英国人私人、インドから英国に渡った船員・知識人・労働者などについて文献調査を行った。さらに19世紀半ばのカルカッタの有力英字紙のマイクロフィルム(東大・東文研所蔵)にて、英国人私人に関する記事を収集した。これまでの研究では光が当てられていなかった東インド会社の職員・植民地官僚・軍人ではない人々の実態を解き明かすことが可能となった。弘末はオランダにおいて、植民地期インドネシアのヨーロッパ人と現地人女性との家族形成や婚姻をめぐる史料調査を行った。オランダ領東インドからインドネシアへ移行する際に重要や役割を果たした現地で生まれた「ユーラシアン」について、そのアイデンティティの側面から解明する道筋をつけた。渡邊は台湾の故宮博物院所蔵のビルマ関係アーカイブの収集と整理を進めた。福建や広東から海外に展開した華僑・華人とは別に、雲南などからビルマ経由で進出した人々の実像を、史料に基づいて描くことが可能となった。疇谷はリスボン国立図書館などで資料収集を行い、新キリスト教徒の海外展開に関する研究を進めた。さらに異端審問関連の研究書・資料を収集した。鈴木はペルシア湾の拘束労働者関係に関する資料収集を進めた。モーリシャス島とバンコクにおける契約労働移民にも注目し研究文献の収集を進めた。ムンバイのマハーラーシュトラ州立文書館に行き、西インド洋における渡海者について資料を調査した。収集した資料を分析することで、インド洋を範囲とする労働者の展開状況を実証的に解明する路が拓かれた。赤嶺はナマコを巡る交易、捕鯨の実情について、文献の収集を進めた。山口はインドネシアとマレーシアで資料調査を行い、インドネシアとマラヤ出身の留学生コミュニティがカイロで発行した雑誌のコピーとデータを入手し、インドネシア出身のカイロ留学生関係記事を集めた。収集した史料に基づき、今後は個々の留学生について、そのパーソナルヒストリーから解明を進めることになる。宮田はリスボンのアジュダ古文書館でモンスーン文書を中心に調査を行うとともに、イエズス会文書を閲覧し、16世紀を中心に日本各地での布教活動報告を閲覧した。従来は日本に限定されていたイエズス会士の活動について、アジア全域のなかで跡づけていくことになる。

最終年度にあたる2020年度は、新型コロナウイルスの蔓延のために国内外での資料調査を進めることが困難となった。研究代表は引き続き資料の購入をすすめ、渡海者に関するコレクションの充実を図った。研究分担者はそれぞれ前年度までに収集した史料の分析を精力的に進め、研究成果としてまとめている。

(b) 渡海者に関する地点におけるフィールドワーク・現地視察の実施

上田と宮田は、メキシコ、クエルナバカの教会の二十六聖人壁画について、2018年3月に予備的な調査を行った。この壁画については、その存在は知られてはいたが、学術的な調査は行われていない。さらに2017年9月に地震の被害を受け、修復が必要となっていた。当初の計画では、2020年3月にフレスコ画修復の専門家とともに、修復の可能性を含めて本格的な調査を行う予定であったが、新型コロナウイルスの蔓延のために断念せざるを得なかった。ただし、予備調査に基づき、宮田が報告書を作成した。

渡海者科研プロジェクトでは、合同調査を行い、専攻が異なる研究者の視点から渡海者の実像の解明を試みた。2018年8-9月には、オランダ領東インドの歴史に詳しい弘末とリサーチアシスタントの久礼と、生態環境史に関心を持つ上田が、オランダで合同調査を行った。その結果、オランダ人のアジアへの海洋進出の前提として、バルト海におけるニシンなどの交易があったことを実地に確かめることが出来た。2019年2-3月には、ポルトガル史を専攻する疇谷の指揮の

もとで、ポルトガルでの合同調査を実施した。16・17世紀にはポルトガルからの渡海者の足跡は、アジア各地に広がっており、送り出した地での調査によって、彼らのアイデンティティの起点を解明する手掛かりを調査参加者が得ることができた。2019年9月には、インド史を専攻する中里の指揮のもとで、インド・アフリカ東海岸間の渡海者を研究する鈴木、インド・中国間のアヘン貿易で財をなしたW. Jardineのライフヒストリー解明に取り組む上田の2名が参加したが、共同で調査を行った。また、国内では、多様な渡海者を受け入れた大友義鎮（宗麟）に関連する大分における史跡、朝鮮通信使が滞在した牛窓の資料館の視察を、複数の研究者が参加して実施した。2020年度には、鶴見良行の足跡を尋ねて東南アジア島嶼部で合同調査を行う予定にしていたが、新型コロナウイルス蔓延のために、断念せざるを得なかった。

研究分担者の個別の見地調査も進めた。上田は台南市において鄭成功に関連する史跡を調査。重松は19～20世紀初めに南アジア以東のアジア海域で活躍したアルメニア海商について、ペナンを中心とした交易港市の実地調査を行った。疇谷はポルトガルにおける実地調査を行い、新キリスト教徒やユダヤ教徒ととのコヴィリヤン、ベルモンテ、ブラガンサ等北部内陸地域や、ポルトに滞在し、新キリスト教徒（改宗ユダヤ人）およびユダヤ教徒関連の史跡・博物館、シナゴーグ等を訪問した。赤嶺は青森県八戸市南郷地区（旧南郷村）を訪問し、かつて大洋漁業の事業員として南氷洋に出漁していた人びとの個人史を採集した。

(c) 研究会・シンポジウムの開催

定期的に立教大学で打合せを行うとともに、2018年7月に大分県立芸術文化短期大学で研究を実施、九州大学の中島楽章氏を招き、16世紀の日欧間渡海者について検討した。2019年12月に岡山大学で研究会を開催した。

2019年2月には公開シンポジウム「アジアの海を渡る人々 16-17世紀の渡海者」を、中島楽章氏代表の科研「「16-17世紀、東アジア海域の紛争と外交-日本・漢籍・イベリア史料による研究-」」との共同開催を開催し、下記の報告が行われた。幅広い研究者の参画を得て、濃密な質疑応答が展開された。

- 上田信「渡海者・鄭舜功が観た日本-『日本一鑑』の日本情報-」
- 須田牧子「遣明船の終焉と「倭寇図巻」の世界」
- 中島楽章「16世紀中期、ポルトガル私貿易商人の東アジア海域進出と陶磁貿易」
- 山崎岳「漳州開港と閩南海寇」
- 岡美穂子「秀吉の南蛮外交とイエズス会の動向」
- 藤田明良「1611年濟州島地方官による『荒唐船』攻撃事件と島津氏の安南通航
-新史料にみる 琉球王子殺害事件の実相-」
- 米谷均「1612年、明からの帰途にて濟州島と平戸に漂着した琉球進貢使について」
- 久礼克季「台湾鄭氏と東南アジア・オランダ東インド会社」
- 疇谷憲洋「流罪人・孤児・新キリスト教徒 -ポルトガル海洋帝国における渡海者と境界人-」
- 宮田絵津子「メキシコ・クエルナバカ市カテドラルに描かれた長崎26聖人殉教図
-長崎発信、世界に与えた衝撃-」
- 李毓中「遭難と紛争
-1625年のポルトガル船ヌエストラ・セニョーラ・デ・ギア号の広東遭難を例として-」

2020年2月には2日に亘って公開シンポジウム「アジアの海を渡る人々：18・19世紀の渡海者」を開催し、多くの参加者のあいだで討議が進められた。

- 渡邊佳成「コンバウン朝ビルマにおける渡海者-商人・通訳・税関長」
- 重松伸司「海のアルメニア商人-17～20世紀アジアの海域交易集団」
- 中里成章「インドへの闖入者たち（interlopers）
-植民地支配前半期にインドに渡航した私人をめぐって」
- 上田信「アヘン戦争を立案したスコットランド人-William Jardine」
- 鈴木英明「「アフリカ人」の誕生 - 19世紀インド洋西海域における救出奴隷の行方」
- 弘末雅士「東インド文学とインドネシア民族主義」
- 山口元樹「20世紀前半におけるインドネシアからのエジプト留学」

(d) 研究成果の出版

研究代表・研究分担者ともに、本科研プロジェクトによる成果を、単著・編著・論文として公表している。研究成果をまとめた出版物は下記のものになる。

Ueda, Makoto, ed. December 2019, *Regional States and the Identities of Overseas People*, Centre for Asian Area Studies Rikkyo University

上田信・中島楽章編、2021年3月『アジアの海を渡る人々 一六・一七世紀の渡海者』春風社、ISBN 978-4-86110-729-0

上田信編、2021年6月『なじま 特別号：アジアの海を渡る人々 一八世紀～二世紀』立教大学アジア地域研究所、ISSN 2188-8213

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 上田信	4. 巻 46(9)
2. 論文標題 開港と開国	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 103-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田信	4. 巻 -
2. 論文標題 朱元璋（洪武帝）理想のために大粛正を行った皇帝	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上田信編著『悪の歴史 東アジア編（下） / 南・東南アジア編』	6. 最初と最後の頁 86-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田信	4. 巻 -
2. 論文標題 朱棣（永楽帝）帝位篡奪者が生んだ闇	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上田信編著『悪の歴史 東アジア編（下） / 南・東南アジア編』	6. 最初と最後の頁 98-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田信	4. 巻 -
2. 論文標題 張居正 果敢な政治家かそれとも腐敗した政治屋か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上田信編著『悪の歴史 東アジア編（下） / 南・東南アジア編』	6. 最初と最後の頁 108-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 弘末雅士	4. 巻 79(1)
2. 論文標題 「変な外人」が社会を動かす?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 弘末雅士	4. 巻 -
2. 論文標題 ラッフルズ 住民の在地支配者への服従を強化した自由主義者	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上田信編著『悪の歴史 東アジア編(下)/南・東南アジア編』	6. 最初と最後の頁 432-443
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中里成章	4. 巻 -
2. 論文標題 ガンディー 最晩年の挫折と孤立	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上田信編著『悪の歴史 東アジア編(下)/南・東南アジア編』	6. 最初と最後の頁 444-469
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 巻 2
2. 論文標題 Agency of Littoral Society: Reconsidering Medieval Swahili Port Towns with Written Evidence	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Indian Ocean World Studies	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 223(3)
2. 論文標題 瓦解を生きる術 マツタケに学ぶ柔韌さ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 食品・食品添加物研究誌FFIジャーナル	6. 最初と最後の頁 259-267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 12月号
2. 論文標題 ふたつの塩くじら	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1239-1241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 近代捕鯨のゆくえ あらたな鯨食文化の創発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岸上伸啓編 『世界の捕鯨と捕鯨問題の現状』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 -
2. 論文標題 うちなる壁の向こうへ 鶴見アジア学の軌跡と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 清水展・飯嶋秀治編 『応答する知の巨人たち フィールドとホームの往還から』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口元樹	4. 巻 79(1)
2. 論文標題 アラブ地域の定期刊行物が構築するネットワークと東南アジアのムスリムの仲介者 カイロの雑誌『ファトフ』を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 120-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田信	4. 巻 -
2. 論文標題 タカラガイの路 ベンガル湾から雲南へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 弘末雅士編『海と陸の織りなす世界史 港市と内陸社会』春風社	6. 最初と最後の頁 49-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田信	4. 巻 8
2. 論文標題 科研「渡海者のアイデンティティと領域国家」スタート	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 なじまあ	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nariaki Nakazato	4. 巻 1
2. 論文標題 Writing about the Partition Riots of India	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Romanian Journal of Indian Studies	6. 最初と最後の頁 9-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tessa Morris-Suzuki	4. 巻 14-2
2. 論文標題 Review of "Neonationalist Mythology in Postwar Japan: Pal's Dissenting Judgment at the Tokyo War Crimes Tribunal" by Nariaki Nakazato (Lanham, MD: Lexington Books, 2016)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Asian Studies	6. 最初と最後の頁 224-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中里成章	4. 巻 -
2. 論文標題 過渡期のインド像 一九世紀中葉のカルカッタ知識人の故国を見る眼差し	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 弘末雅士編『海と陸の織りなす世界史 港市と内陸社会』春風社	6. 最初と最後の頁 261-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 弘末雅士	4. 巻 959
2. 論文標題 女性の神話化 東南アジアの王統紀が語る王国の滅亡と女性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 疇谷憲洋	4. 巻 -
2. 論文標題 「熱帯のパピロン」から「熱帯のヴェルサイユ」へ ブラジルの形成と港市	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 弘末雅士編『海と陸の織りなす世界史 港市と内陸社会』春風社	6. 最初と最後の頁 155-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊佳成	4. 巻 -
2. 論文標題 綿花の道 エーヤーワディー川が結ぶベンガル湾・ビルマ・雲南	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 弘末雅士編『海と陸の織りなす世界史 港市と内陸社会』春風社	6. 最初と最後の頁 69-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Environmental Knowledge and Resistance by Slave Traffickers in the Nineteenth-Century Western Indian Ocean	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Gwyn Campbell (ed.), Bondage and Environment in the Indian Ocean World, Palgrave	6. 最初と最後の頁 187-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Kanga Made in Japan: The Flow from the Eastern to the Western End of the Indian Ocean World	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Pedro Machado, Sarah Fee and Gwyn Campbell (eds.) Textile Trades, Consumer Cultures, and the Material Worlds of the Indian Ocean, Palgrave	6. 最初と最後の頁 105-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Kaiiki-shi and World/Global History: A Japanese Perspective	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Manuel Perez Garcia and Lucio de Sousa (eds.), Global History and New Polycentric Approaches: Europe, Asia and the Americas in a World Network System (XVI-XIXth centuries), Palgrave	6. 最初と最後の頁 119-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Distorted Variation: A Reconsideration of Slavery in Nineteenth-Century Swahili Society from the Master's Perspective	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Alice Bellagamba, Sandra E. Greene, and Martin A. Klein (eds.), African Slaves, African Masters: Politics, Memories, Social Life, Africa World Press	6. 最初と最後の頁 221-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木英明	4. 巻 963
2. 論文標題 「イギリス臣民」が作り出す不条理 19世紀インド洋西海域における境界と不条理の一事例	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 10-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 108
2. 論文標題 プロが支える鯨食文化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Vesta	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 3
2. 論文標題 みずからの歩みをつづる 沿岸捕鯨の歴史を見なおす試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石巻学	6. 最初と最後の頁 53-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 129
2. 論文標題 見えざる鯨から問う	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 本郷	6. 最初と最後の頁 17-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田牧子	4. 巻 258
2. 論文標題 海禁政策と倭寇	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史と地理 日本史の研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田牧子	4. 巻 -
2. 論文標題 大陸への玄関口 五島列島と周辺の島々	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 木村直樹編『大学的長崎ガイド こだわりの歩き方』春風社	6. 最初と最後の頁 159-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田牧子	4. 巻 -
2. 論文標題 コラム：策彦周良の旅路	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 木村直樹編『大学的長崎ガイド こだわりの歩き方』春風社	6. 最初と最後の頁 174-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi, Motoki	4. 巻 75
2. 論文標題 The Transformation of al-Irshad in the Emerging Nation-State: Indonesian Arabs and Accommodation to the Host Society	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Memoirs of the Toyo Bunko	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 重松伸司	4. 巻 50
2. 論文標題 ベンガル湾海域圏を歴史的に展望する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代インド・フォーラム	6. 最初と最後の頁 16-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 HIROSUE, Masashi	4. 巻 78
2. 論文標題 Introduction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木英明	4. 巻 36
2. 論文標題 インド洋海域世界 ヒトの移動が形作る歴史世界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ビオストーリー	6. 最初と最後の頁 6-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木英明	4. 巻 90
2. 論文標題 移動に着目した新たな国家論の可能性へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史潮	6. 最初と最後の頁 67-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤嶺淳	4. 巻 29
2. 論文標題 ノルウェーにおける沿岸小型捕鯨の歴史と変容 ミンククジラ肉のサプライチェーンを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道立北方民族博物館研究紀	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akamine, Jun	4. 巻 104
2. 論文標題 A preliminary analysis of coastal minke whaling in Norway: Where did it come from, and where will it go?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Senri Ethnographical Studies	6. 最初と最後の頁 53-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akamine, Jun	4. 巻 10-1
2. 論文標題 Tastes for blubber: Diversity and locality of whale meat foodways in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Education and Development Studies	6. 最初と最後の頁 105-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口 元樹	4. 巻 58
2. 論文標題 イスラームの文字, マレーの文字	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 141-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 上田信
2. 発表標題 渡海者・鄭舜功が観た日本 『日本一鑑』の日本情報
3. 学会等名 立教大学アジア地域研究所主催・シンポジウム「アジアの海を渡る人々：16・17世紀の渡海者」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 疇谷憲洋
2. 発表標題 ポルトガル海洋帝国における渡海者・境界人～流罪人・孤児、新キリスト教徒～
3. 学会等名 立教大学アジア地域研究所主催・シンポジウム「アジアの海を渡る人々：16・17世紀の渡海者」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 Inheriting Sea Cucumber and Shark Fin Foodways in the Age of Environmentalism
3. 学会等名 SYSU Second International Conference on Food and Culture: People, Ecology and Food (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 Multiplicities of Japanese Whaling: A Case Study of Baird's Beaked Whaling and its Foodways in Kanto and Tohoku regions
3. 学会等名 Across Cultures and Species: New Histories of Pacific Whaling (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 Minke Whale Meat Supply Chain in Contemporary Norway
3. 学会等名 Whaling Activities and Issues in the Contemporary World (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 The Rise of Nosy Be: Conjunction between Indian Ocean network and imperial expansion
3. 学会等名 International Conference: Maritime Monsoon Asia in the Early Modern Period: Global Trade and Early European Colonial Cities (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 奴隷交易からだれが利益を得たのか？ 19世紀インド洋西海域世界における奴隷交易
3. 学会等名 第15回 現代中東地域研究レクチャー・シリーズ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 プロセスとしての奴隷制 19世紀アフリカ東部沿岸スワヒリ社会の奴隷、自由、文明
3. 学会等名 第116回史学会大会公開シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinji Shigematsu
2. 発表標題 Who Crossed the Bay of Bengal?-the convicted, the indentured, and the “seasonal” migrants in 19th-20th centuries
3. 学会等名 Bonded Migration and Identity in the Indian Ocean World, 18th-20th Century (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 Baluchi Experience in Human Trafficking in the Early Twentieth Century Persian Gulf
3. 学会等名 Bonded Migration and Identity in the Indian Ocean World, 18th-20th Century (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 Japanese Kanga in the Context of the Indian Ocean World
3. 学会等名 Textile Pattern Designs in the Global Entanglement: Katagami, Batik, Sarasa and 'African Prints' on the Move, 1800-2000 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 奴隷制とリスク、奴隷制廃止とリスク 世界史的視点から
3. 学会等名 公開シンポジウム「リスク社会をめぐる人文社会科学の超域的枠組み構築へ向けて」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 20世紀前半ペルシア湾岸における奴隷解放調書の資料性の検討
3. 学会等名 第59回オリエント学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 『イギリス臣民』が作り出す不条理 19世紀インド洋西海域における境界と不条理の一事例
3. 学会等名 2017年度歴史学研究会大会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jun Akamine
2. 発表標題 Call for Responsible Consumption of Sea Cucumbers for Conserving Cultural Heritage in Asia
3. 学会等名 Chinese Overseas: Global and Local Dynamics
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口元樹
2. 発表標題 インドネシアのイスラーム運動とアラブ世界：オランダ植民地期末期におけるナショナリズムをめぐる論争
3. 学会等名 南山大学アジア・太平洋研究センター主催・東南アジア学会中部例会共済ワークショップ「東南アジアのイスラーム・メディアから見た世界：1920～30年代を中心に」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Motoki Yamaguchi
2. 発表標題 Education of Arabs in the Dutch Colonial Period: Response to Progress (Kemadjoean) in Indonesian Society
3. 学会等名 International Conference on the Dynamics of Hadhranis in Indonesia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Etsuko Miyata
2. 発表標題 Nagasaki as a link to Manila Galleon
3. 学会等名 Conference on Manila Galleon Trade (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Etsuko Miyata
2. 発表標題 Seeking Manila Galleon through Excavated Chinese ceramics
3. 学会等名 Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Etsuko Miyata
2. 発表標題 Chasing the Trace of San Blas
3. 学会等名 Study of Historical Archaeology (University of New Orleans) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 重松伸司
2. 発表標題 An Armenian Maritime Merchant in Kobe in Modern Period
3. 学会等名 AAS-in-Asia(Kobe) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 疇谷憲洋
2. 発表標題 新キリスト教徒系ポルトガル人献策家(アルビトリスタ)ドゥアルテ・ゴメス・ソリスの意見と企図
3. 学会等名 スペイン史学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 インド洋海域世界のヒトの移動とアフリカ大陸東部のクマネズミ
3. 学会等名 生き物文化誌学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 上田信〔Kou Shuting (訳)〕	4. 発行年 2018年
2. 出版社 厦門大学出版社	5. 総ページ数 184
3. 書名 東欧亜海域史列伝	

1. 著者名 重松伸司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 304
3. 書名 マラッカ海峡物語 ペナン島に見る多民族共生の歴史	

1. 著者名 山口元樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 インドネシアのイスラーム改革主義運動	

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave	5. 総ページ数 224
3. 書名 Slave Trade Profiteers in the Western Indian Ocean: Suppression and Resistance in the Nineteenth Century	

1. 著者名 上田信、中島楽章	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 490
3. 書名 アジアの海を渡る人々	

1. 著者名 弘末 雅士	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 海の東南アジア史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	重松 伸司 (Shigematsu Shinji) (20109242)	追手門学院大学・国際教養学部・名誉教授 (34415)	
研究分担者	中里 成章 (Nakazato Nariaki) (30114581)	東京大学・東洋文化研究所・名誉教授 (12601)	
研究分担者	弘末 雅士 (Hirosue Masashi) (40208872)	立教大学・名誉教授・名誉教授 (32686)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山口 元樹 (Yamaguchi Motoki) (60732922)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	渡辺 佳成 (Watanabe Yoshinari) (80210962)	岡山大学・社会文化科学研究科・准教授 (15301)	
研究分担者	疇谷 憲洋 (Kurotani Norihiro) (80310944)	大分県立芸術文化短期大学・国際総合学科・教授 (47501)	
研究分担者	鈴木 英明 (Suzuki Hideaki) (80626317)	国立民族学博物館・グローバル現象研究部・准教授 (64401)	
研究分担者	赤嶺 淳 (Akamine Jun) (90336701)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	宮田 絵津子 (Miyata Etsuko) (70850080)	和光大学・表現学部・非常勤講師 (32688)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	須田 牧子 (SUDA Makiko) (12601)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------